



ガッポラ

学生ボランティアが地域課題を解決!

丹波篠山には、地域が抱える課題に取り組む大学生たちがいます。彼らはゼミやサークルの活動として、地域の協力のもとさまざまな活動をされています。このコーナーでは、そんな学生の皆さんを紹介します。

問い合わせ 創造都市課 ☎552-5106

福住バス停の改修の様子



「住環境デザイン研究室ぶくたけ」は、関西大学環境都市工学部の学生が所属する研究室の中の学生主体活動です。放置竹林の解決と景観保全を目的に、竹林整備や間伐材を活用したバス停改修などに取り組んでいます。

活動開始は令和4年。重要伝統的建造物群保存地区にある福住バス停をまちなみに合うように、改修を始めました。壁はトタン板から焼杉板や油抜きした竹に変え、ベンチの背もたれを草木染で染め直したり、竹を使用したフラワーポットを作製したりしました。現在はバス停改修の縁から、高校生と共に篠山東雲高等学校のヤギ小屋の製作にも取り組んでいます。

活動の中で大事にしていることは「作るだけでなく、作ったものが『地域の場』として愛されること」。そのため、地元の高校生や工房、工務店と協力し、地域と一緒に作り上げました。また、材料の竹は2、3年で交換するため、今後多くの世代が関わることもできます。「関わってくれた人たちが、『自分たちが作ったんだ』と愛着を持って使ってくれたら」と関西大学の桑木さんは話されました。

地域と学生のつながり

学生 作り上げる楽しさ

大学院1回生 さん

手を動かすだけでなく地域の人と一緒に作業することに面白さとやりがいを感じています。最後には形として残るので、福住に来ると作っていたときのことを思い出します。



地域 新しい視点からの気付き

さん

バス停改修のおかげで、無機質なバス停がおもてなしのバス停に変わりました。学生が関わることで新しい視点でものを考えて提案してくれるので、新たな気づきにつながります。



ヤギ小屋製作の様子

「地域に開けたヤギ小屋」をめざして製作中!



広報「丹波篠山」

9月号